

# 100文字!?書評コーナーの続き!

## 「蜜蜂と遠雷」

恩田陸 幻冬舎

言葉で音楽をこんなにも鮮やかに表現できるものなのか。

それが読みながら、読み終わってからも感じた気持であった。2段組で500pを超える大作だということに、あっという間に読み終えてしまった。満足感と読後のさわやかさと同時にもっとこの作品を読んでいかったという寂寥感。読み終わった後の余韻に浸りたい、読み終わるのがもったいないと思う作品だった。

国際的なピアノコンクールを舞台に、4人のコンテスト選手達が熱戦を繰り広げる。互いの演奏による相互作用により成長していく様は、見ていて応援したくなった。また、ピアノには詳しくなかったため、曲を動画で視聴しながら読み進めていたが、作者の曲に対する表現力は圧巻で、この曲をこう表現するのかと感心した。知っている曲でも新たな感じ方や、自分なりの解釈が広がって興味深かった。同じ曲でも登場人物が変わるだけでこんなにも感じ方が変わるのか。4人全員の演奏を文字で表現した文章力には本当に驚かされる。ストーリーも誰がコンクールで優勝するのか全然読めず、それを予想しながら読み進めていく点でも楽しい。まるでスポーツものを読んでいるかのような、ハラハラドキドキ感があるところもよい。

ピアノを習ったこともなく、クラシックとは無縁の生活を送っていたが、もっとクラシック音楽を聴いてみたいと思った。音楽も文章の力もすごい。

